

社会生活基本調査の実施に向けて

総務省統計局統計調査部労働力人口統計室長 小川 友彬

はじめに

7月28日に発災した令和8年熊本地震及び令和8年8月千葉豪雨によりまして、亡くなられた方々に哀悼の意を表しますとともに、被災された方々に対し、心よりお見舞い申し上げます。そして、このような状況の中で、統計調査の実施に御尽力いただいている統計調査員の皆様、地方公共団体の皆様に深く感謝申し上げます。

総務省は、本年10月下旬に令和8年社会生活基本調査を実施します。この調査は、1日の生活時間や過去1年間の活動の状況など社会生活の実態を明らかにし、少子高齢化対策、仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）の推進など各種行政施策のための基礎資料を得ることを目的として、統計法に基づいて実施するものです。昭和51年（1976年）から5年ごとに実施し、今回で50周年という節目の年を迎えます。

令和8年社会生活基本調査の広報デザイン



社会生活基本調査とは

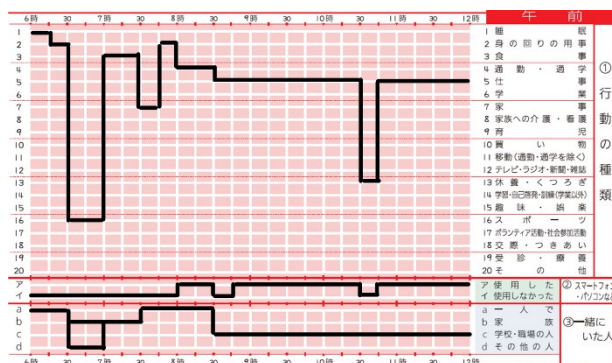
社会生活基本調査は、私たちが、限られた1日の時間をどのように使っているか、また、過去1年間にスポーツ、趣味・娯楽、ボランティア活動、旅行・行楽など、どのような活動を行ったかを調査し、国民の社会生活の実態を明らかにすることを目的として行うものです。

全国から無作為に選ばれた世帯（約9万5千世帯）のうち、10歳以上の世帯員（約19万4千人）が対象となります。調査票には、調査票Aと調査票Bという二種類があります。調査票Aは約9万世帯、約18万3千人が対象となり、調査票Bは約5千4百世帯、約1万1千人が対象となります。

調査票 A は生活時間を 20 の行動類型に分類し、15 分単位で記入していただきます。この 20 の行動類型とは別に、昨今では、スマートフォンを利用するシーンが増えていますので、専用の欄を設けています。例えば、通勤・通学の電車に乗る際に、スマートフォンを見て過ごしている場合には、行動類型は「4 通勤・通学」を選択しつつ、「スマートフォン・パソコンなど」の欄で「ア 使用した」を選択していただきます。

一方で、調査票 B の生活時間は、同じく 15 分単位ですが、記入は自由記入となります。欧州連合の統計部門である Eurostat が取りまとめる Harmonised European Time Use Surveys (HETUS) に対応した生活時間行動分類を用いて集計・公表を行うためです。分類が詳細にわたるため、回答者にコードを選択していただくことが難しく、記入内容を基に、(独)統計センターで格付を行います。このため、調査票 A ほどの大規模な調査を行うことはできませんが、国際比較のためには重要な調査票となります。

調査票 A



調査票 B

時刻	おもに何をしていたか ※15分ごとに おもなもの一つだけ 記入してください	同時に何か 他のこと をしていましたか ※複数ある場合は 一つだけ記入してください	スマートフォン の活用	パソコン の活用
12:00	朝食	雑誌を読む		○
12:30	会社から帰る	駅でスマホでメッセージのやり取り		○
13:00	ケーキを作る（趣味）			○
14:00	福祉センターへ行く	SNSにケーキの写真を投稿する		○
15:00	ボランティアとして「環境美化」の参加			
15:30	福祉に関する講演会を聴き学習			

「日常」を捉えるための工夫

令和 8 年社会生活基本調査では、10 月 20 日を基準として、個人や世帯に関する状況や過去 1 年間の自由時間における活動を調査し、1 日の生活時間の配分については、10 月 17 日から 10 月 25 日までの指定された 2 日間の行動を調査します。

人々の活動は曜日の影響を受けやすいため、調査の対象となる世帯を 6 つのグループに分けて行います。また、10 月 20 日というあまり見慣れない基準日が選ばれているのも、台風などの影響が少ない安定した気候が期待でき、祝日やイベントなどの影響を受けづらい時期だからです。できる限り「日常」を捉えようという工夫が織り込まれた結果なのです。

生活時間の調査における 6 つのグループ

	1	2	3	4	5	6
1 日目	17 日(土)	18 日(日)	20 日(火)	22 日(木)	23 日(金)	24 日(土)
2 日目	18 日(日)	19 日(月)	21 日(水)	23 日(金)	24 日(土)	25 日(日)

世界の中の“Time Use Survey”として

当室では、完全失業率などを公表する労働力調査を毎月実施し、より大規模な調査である就業構造基本調査を5年に一度実施しています。これらの調査は、世帯に調査を行い、就業・不就業の状況を把握するものです。「労働力人口統計室」という当室の名称とも容易に結び付く調査だと思います。

一方で、社会生活基本調査は多様な生活の実態を捉える調査であり、少し異質に映りますが、有償労働と無償労働の両面を捉える調査だと考えれば、つながりが見えてきます。そして、無償労働を捉えるという性質から、ジェンダー統計とも深く関連しています。このため、国際的にもその重要性が認識されており、社会生活基本調査に相当する調査はTime Use Surveyとして諸外国でも幅広く行われています。

ご記入いただく際の負担が決して軽くはない調査ですが、令和8年調査では、スマートフォンで記録を付けやすいように、インターネット回答のデバイス間のデータ同期や、二次元コードによるログイン簡略化などの利便性向上を図っています。

回答をお願いした世帯の方々におかれましては、調査の意義をご理解の上で、是非ご回答いただければ幸いです。

令和8年社会生活基本調査キャンペーンサイト

<https://www.stat.go.jp/data/shakai/2026/campaign/index.html>

(令和8年9月17日)